

眼科

眼科の紹介

特徴として総合病院の眼科のため糖尿病網膜症を始めとする他科との関連がある患者さんを数多く診察しています。ERからの緊急の患者紹介もあり全身疾患に付随する多彩な眼疾患に遭遇する機会があります。また

院内に周産期センターがあるので新生児の診察を定期的に行っています。未熟児網膜症の治療件数は県内有数であり広角眼底撮影装置による記録、双眼倒像鏡レーザー装置による網膜光凝固を行っています。



指導医からの一言

原 和之 眼科主任部長

人が外界から得ている情報のうち80%以上は目からの情報と言われています。高齢化社会でQOLを維持するために『見えること』は必須であり眼科の重要性は益々高まっています。

眼科に興味のある方は、是非、見学にお越しください。お待ちしております。

当科の件数

眼科の最近10年の検査機械、手術装置、治療薬剤の進歩はめざましく治療対象、治療の選択肢は大きく広がりました。市中病院であっても進歩に後れることなく新しい医療を提供したいと考えています。平成29年の当院での年間手術件数は約1500件でした。網膜剥離などの急患の手術が増加中です。白内障手術の約半分は外来手術となっています。加齢黄斑変性症、黄斑浮腫の治療として抗血管内皮増殖因子の硝子体注射を行っています。

